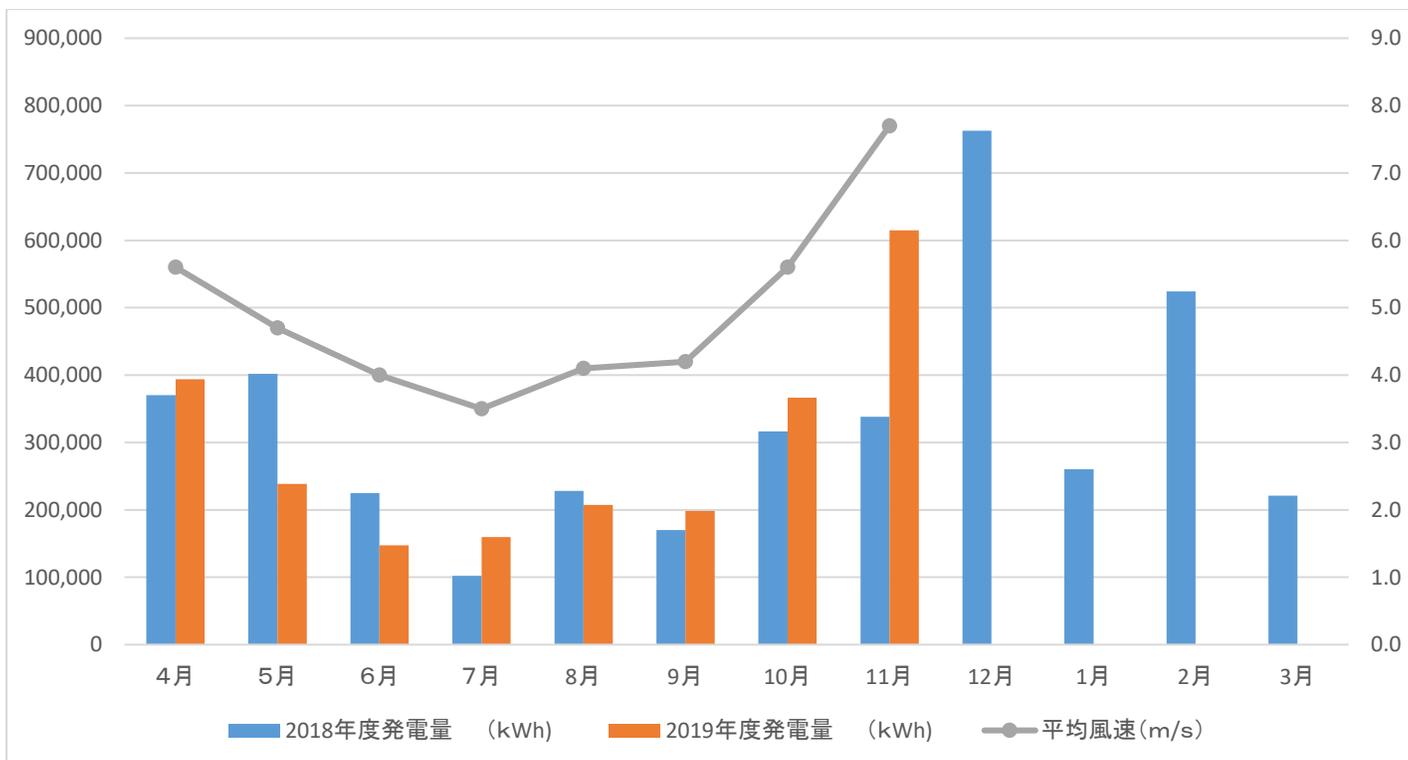


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 鈴木伸予

○ 発電実績



11月度運転状況について

- 平均風速は7.7m/sで、前年同月に比べ2.6m/s高い実績でした。
- 風速が高かったため、発電量も前年比181.9%と高くなりました。

鳥海山の山岳道路「鳥海ブルーライン」は、11月5日(火) 17:00から冬期閉鎖のため通行止めとなりました。この道路は秋田県にかほ市と山形県遊佐町を結び、鳥海山麗を登る雄大なドライブコースとなっています。来年の4月下旬に開通予定です。

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	393,953	5.6	98.3
5月	238,301	4.7	92.4
6月	147,508	4.0	96.9
7月	159,901	3.5	99.6
8月	207,146	4.3	97.7
9月	198,307	4.2	96.6
10月	366,622	5.6	97.8
11月	614,728	7.7	99.4
12月			
1月			
2月			
3月			

にかほ市大豆の点検視察を行いました



2016年より、にかほ市産の大豆20トン、を、共生食品株式会社が購入し、生活クラブの豆乳の原料となっています。共生食品では、毎年大豆の産地点検視察を行っており、今年も11/22に小林利明部長がJA秋田しんせい西部カントリーを訪問しました。

にかほ市大豆は、JA秋田しんせいの西部カントリーに集荷されます。まず、西部営農センターの佐々木鋼記センター長よりお話を伺いました。大豆の品種は、リュウホウのみです。今年の作付け面積はにかほ市全体で170ha、芹田では27haとのことで、収量は、昨年よりもやや多い見込みだということです。

その後、由利本荘にあるJA秋田しんせいの本所を訪問し、お話をお聞きしました。JA秋田しんせい全体の作付け面積は350haで農家の高齢化により減少してきているとのことです。

にかほ市大豆は番号でしっかりと分別管理されていますが、見た目でもわかるように、次年度からは外袋ににかほの印を押すなど目印を付けることの検討を依頼しました。

東日本大震災復興支援まつりに参加しました

2019年12月7日、生活クラブ神奈川の東日本大震災復興支援まつりが横浜みなとみらいで開催されました。当日は、小雨の降る真冬のお天気にもかかわらず、72団体、102ブースの出店があり、約4000人の参加で賑やかに開催されました。今年も、お祭りの売り上げの5%を被災地の支援団体へのカンパとなります。



グリーンファンド秋田は、にかほ市より伊藤製麺所の伊藤さん、日南工業の服部さんをお呼びして、生ラーメンの販売を行いました。毎年好評の特製煮豚やウズラの卵、焼きのり、ネギの豪華トッピング付きで、今年は300食が完売となりました。神奈川の環境平和委員会の組合員のみなさんにも寒い中お手伝いを頂き、ありがとうございました。

ステージアピールの様子。右から、高橋、服部、佐々木、伊藤、鈴木



わかめ撒きの様子。震災で被害を受けた重茂漁港のわかめの中に、参加団体から提供の景品のくじが入っています。

秋田県にかほ市からは、まちづくり推進課の高橋さん、道の駅ねむの丘の佐々木さんが参加し、にかほ市の物産販売を行いました。

また、法政大学西城戸誠教授のゼミ生3人がお手伝いに駆けつけて頂き、にかほと遊佐のアピールを行いました。

おまつりのステージでは、初めに、生活クラブ神奈川理事長の藤田実行委員長のご挨拶があり、つづいて被災地からのメッセージや八神純子さんのライブ、わかめまきなどが行われ、共同宣言を受け閉会しました。

飯館電力の視察研修に参加しました

12/14(土)15(日)に生活クラブ神奈川の環境平和委員会が主催した飯館電力の視察研修に、グリーンファンド秋田から研修として参加させていただきました。

飯館電力の視察報告

福島県飯館村は、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故を受け全村避難を強いられた村です。6年間を経て、2017年3月末に一部地域を除き避難指示が解除され、帰村可能となっていますが、住民の2割ほどしか戻っていません。

福島駅から飯館電力(株)の千葉訓道さんにご案内頂きました。車で飯館村に入ると、除染した土を詰めたフレコンパックの山がいたるところに積みまわれていました。



飯館電力(株)は、村民自らが飯館村の土地と風土を守り、村の未来をつくるために2014年9月に村民主体で設立されました。会社の理念は、「産業の創造」「村民の自立と再生」「自信と尊厳を取り戻すこと」をめざして飯館村のあるべき未来を自らの手により造り成すものとし、「若者・子供たちのための雇用創出」「豊かな自然の保護と再生」「自然エネルギーの地産自立」を達成目標としています。

村内には現在約60カ所の飯館電力低圧発電所(50kW未満)が稼働しています。太陽光発電所には、従来の「野立て型」と、農地を有効に活用するためにパネルの下で農業を行う「ソーラーシェアリング型」の2種類があります。現在、飯館村のソーラーシェアリングでは牧草を育て、飯館村の畜産事業者に提供しています。

震災以前、飯館村には230戸もの牛農家が存在する和牛「飯館牛」の一大生産地でしたが、全村避難で多くの牛農家が廃業しました。今年、会長の小林稔さんの肥育牛から、8年ぶりに3頭の飯館牛の出荷が行われたという明るいニュースもありました。小林さんは、飯館電力の社長として頑張っておられ、現在、会長をされています。

当日は、小林さんの牛舎の横のソーラーシェアリングを見学しました。

飯館電力では、2018年1月より㈱生活クラブエナジーに電気を売電しています。



ソーラーシェアリングの見学の様子。右端：千葉訓道さん



生活クラブ神奈川の環境平和委員会の組合員のみなさん

コラム 国連の温暖化防止会議（COP25）が開催されました

平均気温の上昇を産業革命前に比べて2度未満(できれば1.5度)に抑えるという長期目標を持つ「パリ協定」が2020年から本格的に始まります。その実施を前に、国連の温暖化防止会議(COP25)が、2019年12月2日から2週間の会期で、スペイン・マドリッドにおいて開催されました。

COP25にはスウェーデンの16歳のグレタ・トゥーンベリさんをはじめとした世界の若者たちも参加し、大人たちに対策の強化を訴えました。会期を2日延長した末、COP25はギリギリのところ、各国に対して対策強化のメッセージを打ち出すことができましたが、それは決して、若者たちの叫びに十分に応えたものとはいえません。日本は石炭火力推進姿勢を強く非難されているにも関わらず、小泉外務大臣は、応えることもありませんでした。

そうした中、日本はこの間、2回も化石賞を受賞しました。化石賞は、地球温暖化問題に取り組む世界120か国の1300を超えるNGOのネットワークであるCANインターナショナルが、温暖化対策に消極的な国に与える不名誉な賞です。

11/26、COP25に先立ち、国連環境計画(UNEP)による報告書が公表されました。この報告書では、1.5度の上昇を抑えるには「今は年に1.5%ほど増えている排出量を年7.6%ずつ減らす必要がある」と指摘し、社会や経済のありかたの転換を求めています。具体的な削減策としては、再生可能エネルギーの拡大、省エネの強化、電気自動車の普及などを挙げています。

また、国ごとの有効な対策を示し、日本には二酸化炭素の排出が多い石炭火力発電所の新設をやめ、既存のものは段階的に廃止する計画の策定を促しています。企業などのCO2排出量に応じて課金する制度の強化も必要だとしています。

(文責 事務局長 鈴木)

本年も大変お世話になり、ありがとうございました。良いお年をお迎えください。